



# 祐介の目

## 藤井與一右衛門

戦前の福山で知らぬ人はいなかった一流の経済人・藤井與一右衛門（よいちえもん）は福山藩の御用商人「くろがねや」の末裔であり、酒造業や製塩業を代々営んでいた。福山商工会議所の創設メンバーにも名を連ね、社交クラブ「鉄止云」では秋に営林署の署長が幹事となり、松茸の薩摩汁と藤井酒造の鉄正宗で福山41連隊の樋口季一郎連隊長らと一献傾けたぞうだ。当時の連隊長と言えばまち一番の名士だ。

大正8年、33歳の時に福山岳会を創設して山野町の地形に着目し、山野町に水力発電所を建設した。その際に家に伝わる大量の骨董品を処分して建設費を工面した逸話がある。その発電所は最近リニューアルされたが、歴史的電力遺産と言えた與一右衛門の発電所消滅は残念至極だった。

鞆の医王寺近くにある別荘「後山山荘」は実弟の建築家・

大田ゆうすけ (No.90)  
(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

藤井厚二の設計である。廃墟同様に荒れ果てていた歴史的建築物は7年前に福山の建築家・前田圭介の手により蘇った。

現在私が会長を務める福山岳会は2月23日に創立百周年を迎えた。当日は第1回登山と同じ熊ヶ峰に登り、グリーンラインのファミリパークにて記念植樹の後、医王寺に下山した。後山山荘にも立ち寄り、燦爛の絶景を眺めながら会員一同で名誉会長・與一右衛門に感謝の気持ちを伝えることができた。最後に晩年の名誉会長の言葉を紹介する。

「新日本の建設は健康から生じます。講和発効の年一九五二年に処して我が会員各位に期待するのは、鬱勃(うつぱく)たる雄心、澆刺(じょうし)たる体力を以て各自業務に颯爽(さつそう)と遂行される事です。之が原動力は凡て各位の健康に他ならぬので有ります。今年こそは十二分に清澄の大気の裡燦々たる陽光の下で体力を鍛え、或いは高所から人界を眺観(たっかん)ばつかんし、又は幽谷での山霊の気を吸収して思想を練つて活躍、根源を涵養して下さい。」

皆様も啓文社発行の福山岳会百周年記念誌「コースガイド100」を参照して、近郊の里山登山にチャレンジしていただきたい。